

陽光(ようこう)

登録番号：第129号

育成者：佐藤三郎 中條忠久

登録年月日：昭和56年5月27日

来歴：「ゴールデンデリシャス」の

登録者：群馬県(前橋市大手町1-1-1)

自然交雑実生

特性

■栽培特性

樹勢は中位で、樹姿は開帳性である。若木は枝梢の伸長が旺盛であるが、結実期になると落ち着いた伸びを示す。枝梢の太さは中位で、節間はやや長い方に属する。短果枝、中果枝の着生は良好であるが、枝が直立しているとハゲあがり現象が現われ、結果枝の着生が不良となる。そのため、遅成り傾向を示すことがある。

葉柄はやや短く、葉身長、葉幅、葉厚、葉面積は一般栽培品種とほぼ同等である。葉色は緑色で、葉裏の毛じは少ない。

花芽は円みを帯びた円錐形で、大きさは中である。1花そうに5～6個の花を付け、蕾時は濃桃色であるが、開花すると淡桃色となる。

発芽期、展葉期、開花期は「ゴールデンデリシャス」に類似し、他品種との交配親和性は高く、豊産性で、隔年結果は少ない。また、凍霜害、強風による風害も少ない。さらに、心カビの発生も少なく、生理落果も少ない方に属する。

■果実特性

果形は長円形を示し、大きさは300～350gの大玉である。果皮は薄く、黄緑地に鮮紅～濃紅色に着色し、外観は優れる。しかし、無袋栽培では果頂部を中心にさびが発生することが多い。そのため、この防止対策として、落花後13日以内にハトロン小袋をかける。果点は粗に分布し、大きさは中である。果梗はやや長く、こうあいの広さ、深さとも中で、がくの広さは中で、深さはやや浅い。

果肉は黄白色、肉質やや粗であるが、硬さは中である。果汁は多く、糖度は15度前後、酸度は0.4%前後で、濃厚な食味である。果実の貯蔵性は高い方である。

成熟期は育成地で10月中下旬であるが、完熟期前でも肉質は硬いが食味は良好であり販売期間が長い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

斑点落葉病に対してかなり強い抵抗性を有する。うどんこ病、黒星病、赤星病に対しては他の品種と同等である。

葉裏に毛じが少ないことから、ハダニ類の寄生が比較的少ない。

さびの発生を防止するため小袋かけ作業を必要とするので、大規模栽培は慎む。また、わい化栽培では「つがる」同様側枝の発生促進対策を行う。

■地域適応性

この品種は「ゴールデンデリシャス」同様にかなり幅の広い地域適応性を有しているものと考えられるが、わが国では山形県以南での栽培が多い。とくに、長野県、福島県での栽培面積が多く、最近では西南暖地での導入も増加傾向を示している。育成地・群馬県での栽培面積は全体の23%、115haである。

(中條忠久)